

CONTENTS

川崎重工を理解する

川崎重工とは

- 1 水素が身近にある社会がすぐそこまで
- 5 CONTENTS
- 5 Kawasaki Report 2022のポイント
- 7 カワサキグループ・ミッションステートメント
- 9 事業規模
- 11 歴史
- 13 価値創造プロセス

POINT 1

このレポートで 知ってほしいこと

川崎重工グループは、グループビジョン2030「つぎの社会へ、信頼のこたえを」を掲げ、新たな歩みを始めています。

本レポートでは、組織と風土を変革し、水素事業をはじめとする新たな価値創造を通じた持続的な成長を目指す当社グループの今の姿をお伝えします。各章では「グループビジョン2030」「重要課題(マテリアリティ)」に沿って、取り組みや進捗を報告します。

長期ビジョンと戦略

価値創造ストーリー

- 15 トップメッセージ
- 21 グループビジョン2030
- 25 エネルギー・環境ソリューション
- 33 安全安心リモート社会
- 35 近未来モビリティ
- 37 重要課題(マテリアリティ)
- 39 3つの注力フィールドにおける目標と実績
- 41 財務担当役員メッセージ
- 43 技術開発・DX担当役員メッセージ

POINT 2

「グループビジョン2030」で 3つの注力フィールドを策定

新たな時代の社会課題を見据え、3つの注力フィールドを軸とする成長シナリオを策定しました。3つの注力フィールドは、マテリアリティの中で「事業を通じて創出する社会価値」として最重要課題と位置付けています。

安全安心リモート社会

近未来モビリティ

エネルギー・環境ソリューション

価値創造のためのESG

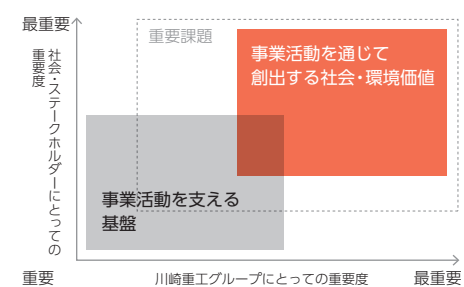
事業活動を支える基盤

- 45 人財活躍推進
- 46 労働安全衛生
- 47 サステナブル・サプライチェーン・マネジメント
- 48 ビジネスと人権
- 49 技術開発・DX
- 50 情報セキュリティ
- 51 コンプライアンス
- 52 製品責任・安全
- 53 コーポレート・ガバナンス
- 61 会長・社外取締役座談会
- 65 役員体制

POINT 3

最重要課題の達成に向けた基盤項目 ——事業活動を支える基盤

「グループビジョン2030」の策定に伴い、重要課題(マテリアリティ)を見直しました。「事業活動を支える基盤」の各課題の重点事項を明確にするとともに、目標となる指標(KPI)を定め、取り組みを推進しています。



POINT 4

Webサイトとの情報のすみ分け

環境・社会・ガバナンス(ESG)に関する詳細情報やデータは、Webサイトを都度更新することでタイムリーに開示しています。



統合報告書 <-----> Webサイト

編集方針

川崎重工グループは、2013年度より、統合報告書として「Kawasaki Report」を発行しています。本レポートをステークホルダーの皆様とのコミュニケーション・ツールと位置付け、当社グループの社会価値創造と企業価値向上に向けた取り組み、経営方針、事業環境・戦略、および環境・社会・ガバナンスに関する情報(ESG情報)の主なものをお伝えしていきます。

その他詳細な情報についても、当社Webサイトをご覧ください。

IR情報 <https://www.khi.co.jp/ir/>

サステナビリティ情報 <https://www.khi.co.jp/sustainability/>

対象期間

2021年度
(2021年4月1日～2022年3月31日)
(注)一部2022年度の情報も含む

対象範囲

川崎重工業株式会社および連結子会社
99社(国内43社、海外56社)
持分法適用非連結子会社19社
(注)一部は単体情報

発行頻度

原則年1回発行
前回発行 2021年10月
次回発行 2023年9月予定

お問い合わせ先

当社Webサイトのお問い合わせフォームよりお問い合わせください。
<https://www.khi.co.jp/corporate/contacts/>

参考ガイドライン

- グローバル・レポーティング・イニシアチブ(GRI)「サステナビリティ・レポーティング・スタンダード」
- 国際会計基準(IFRS)財団「国際統合報告フレームワーク」
- 環境省「環境報告ガイドライン(2018年版)」
- 経済産業省「価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス2.0」